

(5) 化学工業

① 概要

化学工業は、化学肥料、無機化学工業製品、有機化学工業製品、最終製品に大別される素材産業である。最終製品には医薬品や化粧品、塗料が、有機化学工業製品には紙おむつに使用する高吸水性ポリマーの材料となる有機化合物などが含まれ、自動車や住宅、生活関連財を生産する他の産業とも密接に関連している。

平成 24 年経済センサス活動調査（製造業集計）によると、全国の化学工業の製造品出荷額は 26.4 兆円と、製造品出荷額全体の 9.2%を占める。製造品出荷額は、リーマンショック直後の平成 21 年は落ち込んだが、その後回復を続けている。製造業全体に占める化学工業の割合は、産業中分類では、輸送用機械器具製造業の 17.8%に次いで高く、我が国の基幹産業である。業種別では、最終製品が化学工業全体の 53.1%を占める。中でも、医薬品が 29.9%、その他の最終化学製品が 7.1%、化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品が 4.9%と多い。

② 市内の化学工業の特色

平成 24 年経済センサス活動調査（製造業集計）によると、京都市の化学工業の事業所数は 54 所（対前年増加率△1.8%）、従業者数は 2,075 人（同△9.7%）、製造品出荷額は 667 億 57 百万円（同△2.6%）、粗付加価値額は 237 億 91 百万円（同△7.6%）である。製造業全体に占める化学工業の割合は、事業所数が 1.8%、従業者数が 3.2%、製造品出荷額が 2.8%である。また、付加価値率は 35.6%で製造業平均とほぼ等しい。平成 14 年以降の推移を見ると、事業所数はほぼ変動がない。従業者数、製造品出荷額もほぼ横ばいに推移していたが、平成 23 年は大きく減少した。〔表Ⅱ-3-5-1、図Ⅱ-3-5-1〕

表Ⅱ-3-5-1 京都市の化学工業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等、粗付加価値額の推移（単位：所、人、百万円、%）

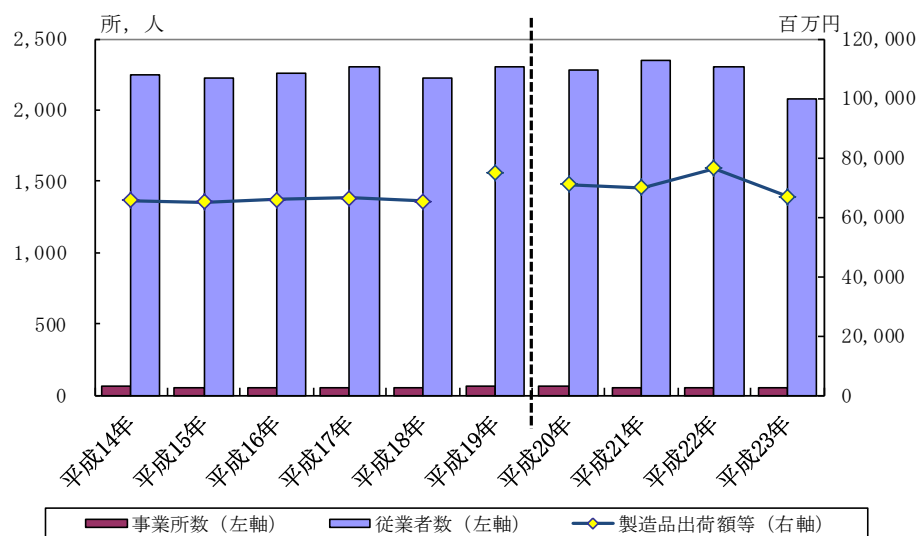
	事業所数		従業者数		製造品出荷額等		粗付加価値額	
		対前年伸び率		対前年伸び率		対前年伸び率		対前年伸び率
平成 14 年	58	0.0	2,242	-8.3	65,658	-23.8	33,643	-28.8
平成 15 年	56	-3.4	2,222	-0.9	64,986	-1.0	33,213	-1.3
平成 16 年	55	-1.8	2,255	1.5	65,889	1.4	32,936	-0.8
平成 17 年	55	0.0	2,308	2.4	66,377	0.7	33,617	2.1
平成 18 年	52	-5.5	2,219	-3.9	65,187	-1.8	32,901	-2.1
平成 19 年	57	9.6	2,301	3.7	74,758	—	35,335	—
平成 20 年	57	—	2,278	—	71,052	—	22,475	—
平成 21 年	53	-7.0	2,350	3.2	69,957	-1.5	25,281	12.5
平成 22 年	55	3.8	2,299	-2.2	76,404	9.2	25,759	1.9
平成 23 年	54	-1.8	2,075	-9.7	66,757	-12.6	23,791	-7.6

資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査（製造業集計、市区町村編）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等、粗付加価値額は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため、前年調査の数値とは接続しない。

図Ⅱ-3-5-1 京都市の化学工業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査（製造業集計，市区町村編）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため，製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため，前年調査の数値とは接続しない。

③ 業種別の状況

産業細分類別の製造品出荷額を見ると，従業者数が多い印刷インキ製造業や界面活性剤製造業（石けん，合成洗剤を除く）など 48.9%の数値が公表されていないが，それを除くと，他に分類されない化学工業製品製造業が 18.8%と最も多く，次いでその他の有機化学工業製品製造業が 12.5%と多い。〔表Ⅱ-3-5-2〕

京都市は，地場産業として西陣織や京友禅などの染織業が古くから盛んで，その関連産業として糸・紡織の精練，染色助剤及び仕上剤として利用される界面活性剤（石けん，合成洗剤を除く）等の化学工業製造業も集積している。市内に本社を有する上場企業は現在 3 社存在しており，その他大手企業も多数存在する。近年では，製品使用の用途・分野を広げたり，環境に配慮した新製品の開発なども積極的に行われている。また，新たな市場獲得のため海外へ進出する企業も多く見られる。

表Ⅱ-3-5-2 京都市の化学工業の主な産業（細分類）別事業所数，従業者数，
製造品出荷額等

(単位：所，人，百万円，%)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
		構成比		構成比		構成比
化 学 工 業	54	100.0	2,075	100.0	66,757	100.0
他に分類されない化学工業製品製造業	16	29.6	531	25.6	12,577	18.8
その他の有機化学工業製品製造業	5	9.3	180	8.7	8,370	12.5
環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	4	7.4	278	13.4	6,083	9.1
頭髮用化粧品製造業	3	5.6	110	5.3	2,593	3.9
その他の無機化学工業製品製造業	3	5.6	42	2.0	2,292	3.4
生薬・漢方製剤製造業	3	5.6	55	2.7	483	0.7
塗料製造業	3	5.6	21	1.0	268	0.4
印刷インキ製造業	1	1.9	200	9.6	χ	χ
界面活性剤製造業（石けん，合成洗剤を除く）	2	3.7	182	8.8	χ	χ
生物学的製剤製造業	1	1.9	125	6.0	χ	χ

資料：京都市総合企画局「平成23年工業統計調査」

細分類については主なものを掲載

注：該当事業所が特定されるおそれのある箇所は，「χ」で表記。